

企業と
地域が つながるとき

第4回

“社員が参加できる”を追求した

『日立ボランティア・セミナー』の11年間



講義：全国音訳ボランティアネットワークの方々から、音訳ボランティアについてや活動に必要なルール・配慮を学びました。

東京ボランティア・市民活動センターには、東京周辺に本社のある企業や外資系企業から、「社員が参加できるボランティア活動を紹介してほしい」、「研修の中でボランティア活動（地域貢献活動）に取り組みたい」という相談が数多く寄せられています。今回は、忙しい社員の人たちでも参加できるボランティア活動の開発に取り組んできた『日立ボランティア・セミナー』をご紹介します。

社員にボランティア活動の

きつかけを提供

今から12年前（2001年）に、日立製作所の社会貢献担当者が本センターにいらっしゃいました。日立グループでは、教育、福祉、環境、国際協力、科学技術等の6つの財団を設立し、国内および海外での社会貢献活動に積極的に取り組んできましたが、社員にアンケートをとったところ、自分たちの会社の社会貢献活動についてよく知らない人が多いことがわかりました。また、社員の多くがボランティア活動に関心があるけれども、きつかけがなくて参加できないということも。そこで、社員のボランティア活動への理解ときつかけ

づくりを目的とし、翌年（2002年）から『日立ボランティア・セミナー』を本センターと一緒にスタートしました。

早いもので今年は11年目となり、既に42回のセミナーを実施しました（表参照）。そして、参加した社員は累計で1500名にも達しています。日立グループの中でもすっかり本セミナーが定着し、毎回、参加者を募集すると数日で定員に達するような状況です。

社員の関心と

参加しやすさを追求

『日立ボランティア・セミナー』は、「福祉」「環境」「教育」「国際協力」等をテーマに毎年3〜4回開催しています。また、今までボランティア活動にあまり参加したことがなく、多忙を極める社員の人たちでも参加できるように、次のような点をくふうしています。

①平日夜に会社の中で、週末は家族と一緒に会社の外で

まず、セミナーの開催時間と場所ですが、社員が気軽に参加できるように、月に1回の「ノー残業デー（定時退勤日）」の夜に、日立グループの会議室等を使い、定員30〜40名で開催しています。当初は本社ビルだ

けでしたが、グループ会社の社員も参加しやすいうちに、会場を変えて実施するようにはしました。

また、週末の活動は、海、川、山、NPOの活動場所や施設など、会社の外に出かけて行きます。社員にとって週末は家族と過ごす大切な時間ですので、セミナーの定員を50名程度と増やし、家族も一緒に参加できるようにしました。子どもたちの夏休みのイベントや課題研究などにも活用されているようです。

②学ぶだけでなく、体験できること

セミナーの内容は、講師の話聞くだけの座学ではなく、実際にボランティア活動が体験できるようにしました。平日夜は2時間程度、週末は半日程度と限られた時間の中で、ある程度の達成感が得られるようなものになっています。

各回のテーマは社員たちの関心と社会的な課題との両方を考慮して決定します。特に技術系の男性社員も参加しやすいように、パソコンを使ったボランティア活動を入れたり、昨年の東日本大震災以降は「災害」をテーマにしたセミナーを開催しています。

こうした、セミナーの内容や進め方は、事前に、日立製作所の社会貢献担当とNPOや施設の方たちと本センターのスタッフ

との3者が集まって企画しています。

③社員同士の交流の機会にも

大きな企業ですと、同じ会社で働いていてもなかなか他の部署の人と話す機会は少ないもの。そこで、活動中は数名のグループに分けて、協力して取り組んでもらうようにしています。また、セミナーが終わった後は、軽食を用意しながら、30分程度の交流会を行っています。希望者のみとしていますが、ほとんどの方が参加し、参加者同士で話したり、講師の方にもいろいろ質問をして、交流を深めています。

第42回

『音訳ボランティアを体験しよう!』

それでは、今年の7月4日(水) 18時30分~21時に実施したセミナーについて簡単にご報告しましょう。今回の会場は、飯田橋にある本センターの会議室など4つの部屋を使って実施しました。

テーマは音訳ボランティア。音訳とは視覚からの情報を得ることが困難、もしくはその他の理由で情報収集が困難な方のために、本、雑誌、新聞、その他の文章情報を音声に換えて提供する活動です。講師は、全国音訳ボランティアネットワークのボランティアの方々10名。企業の人たちに対し



交流会：セミナー終了後、障害のある人の作業所で作ったクッキーを食べながら、音訳ボランティアの方にたくさん質問をしています。

てこうした体験セミナーをするのは初めてということ、事前に何度も打ち合わせや下見をし、入念な準備をして実施してくださいました。

最初に、音訳ボランティアについて説明があった後、音訳に必要な基本的スキルの説明とトレーニングを受けました。書いてあるものをただ読めばよいと思っていたら、難しい漢字が出てきたり、アクセント



音訳体験：グループに分かれて、市報の中の記事を音訳してみることに挑戦！

や文章の切り方にルールがあったり、表や絵などは追加説明を考えたり……と、視覚障害のある方々にわかりやすく読むにはいろいろなスキルや配慮が必要であることがわかりました。

そして、5つのグループに分かれて、市報の中の1つの記事を音訳することに挑戦。写真の説明も必要となり、社員の皆さんは苦勞していました。積極的に音訳ボランティアの方々に質問していました。最後に全員が集合し、録音したものを聞いて

みます。同じ文章なのに一人ひとり読み方や説明の仕方が違います。音訳ボランティアの方々からは、「皆さん、大変熱心ですね。初めてなのにここまでできて素晴らしい」とほめていただきました。その後、ボランティアの方が漫画を音訳したものを聞くと、社員の皆さんは「すごい！」と驚いていました。

セミナーの後の交流会では、都内の精神障害のある方々の作業所で作ったおいしいクッキーを食べながら、体験の感想や音訳ボランティアについての質問で盛り上がっていました。

参加者のアンケートには、「限られた時間でしたが、音訳ボランティアの活動内容、費やす熱意、労力が伝わってきました」「音訳を必要としている人の立場に立ち、わかりやすく、忠実に伝わる方法を考えることの重要性を理解できました。現在WEBを制作していますが、アクセシビリティの根本部分の理念を学べたと思います」などの感想が寄せられています。

社員が地域社会と

もつつながれるように

企業で働く人たちは、多くの時間を会社や仕事関係で過ごすことになり、あまり、地域社会に「一市民」として「ボランティア

ア」として参加したり、貢献したりすることが難しいのが現状ではないでしょうか。しかし、昨年の東日本大震災でも多くの企業人ボランティアが活躍したように、皆さん社会課題やボランティア活動に関心があります。

また、企業としても、社員の暮らす地域社会が豊かであることが仕事にもよい影響を与え、社員の成長にもつながると考えているようです。

一方、厳しい経済状況の中、今までボランティアとして地域社会を支えてきた専業主婦や大学生も働くようになり、退職したシニアの人たちも元気なうちは仕事をしています。このためボランティアの超高齢化や後継者不足が課題となっているのです。

そうであれば、忙しく働いている人たちでも、地域社会に参加・貢献できるようなボランティア活動を、ボランティア・センターやNPO、福祉施設、ボランティア団体がもつと積極的に創っていきけるとよいのではないのでしょうか。そして、社員の人たちが実際に「第一歩」を踏み出せるように、企業がきっかけを提供して支援することはとても重要だと思えます。

河村暁子

(東京ボランティア・市民活動センター)

表：『日立ボランティア・セミナー』の実施状況

No.	実施年	分野	テーマ	会場	講師
1	2002年	ガイダンス	ボランティアって何?～子どもへの支援から考える～	日立製作所本社ビル	TVAC 自然と遊びの会 でてこいサークル
2		救護	日常生活でも役立つ応急処置と救命措置	日立製作所本社ビル	日本赤十字社東京都支部
3		福祉	車いすを押してできるボランティア活動	日立製作所本社ビル	TVAC ちよだボランティアセンター
4		教育	アジアの子どもたちに送る翻訳絵本の制作体験	日立製作所本社ビル	(社) シャンティ国際ボランティア会
5		環境	ピーチ・クリーンアップ体験	神奈川県片瀬東浜海岸	クリーンアップ全国事務局
6	2003年	救護	ボランティア活動に役立つ応急処置と救命措置	日立製作所本社ビル	日本赤十字社東京都支部
7		福祉	インターネットでの朗読ボランティア	日立製作所本社ビル	日本フィランソロピー協会
8		教育	パソコンボランティア入門	日立製作所本社ビル	渋谷パソコンと
9		環境	野鳥公園のクリーンアップ体験	東京港野鳥公園	東京港グリーンボランティア
10	2004年	救護	子どもの事故予防と応急処置	日立製作所本社ビル	日本赤十字社東京都支部
11		福祉	パソコン要約筆記ボランティア	日立製作所本社ビル	全国要約筆記問題研究会
12		環境	援農(農業のお手伝い) ボランティア	栃木県茂木町	入郷地区棚田保全協議会 棚田ネットワーク
13	2005年	教育	日本語ボランティア	日立電線株式会社	日本語グループWAIWAI
14		スキルアップ	ボランティアと傾聴(話の聴き方)	日立金属株式会社	いのちの電話
15		福祉	高齢者の介護ボランティア	日立製作所本社ビル	日本赤十字社東京都支部
16		教育	夏!体験ボランティア	都内各所	幼い難民を考える会 台場児童館 でてこいサークル
17	2006年	環境	公園の雑木林ボランティア	都立桜ヶ丘公園	桜ヶ丘公園管理所スタッフ 桜ヶ丘公園雑木林ボランティア
18		環境	野鳥公園のクリーンアップ体験	東京港野鳥公園	東京港グリーンボランティア
19		福祉	聴覚障がいについて考えてみよう	日立製作所新大手町ビル	関東聴覚障害学生サポートセンター
20		教育	子どもの気持ちを引き出すコミュニケーション	日立キャピタル株式会社	きてきて先生プロジェクト
21		国際協力	アジアの子どもに贈るNew Year's Day Cardづくり	TVAC	ESAアジア教育支援の会
22	2007年	教育	カンボジアの子どもに贈る遊具づくりのお手伝い ～布チョッキンで国際支援～	株式会社日立国際電気	幼い難民を考える会
23		環境	週末はストップおんだん館に行こう	ストップおんだん館	全国地球温暖化防止活動推進センター
24		環境	荒川クリーンアップ大作戦	荒川下流右岸周辺	荒川クリーンエイド・フォーラム
25		福祉	絵手紙ボランティア ～ひとり暮らしの高齢者に年賀状を～	TVAC	みなとボランティアセンター
26	2008年	スキルアップ	あなたにも救える命がある～AEDと心肺蘇生法～	日立電子サービス株式会社	日本赤十字社
27		環境	森づくりボランティア	埼玉県神川町周辺	樹恩ネットワーク
28		福祉	ハンディのある方へのサポート	TVAC	TVAC
29		教育	読み聞かせボランティア	日立電線株式会社	朗読家 池田洋子さん
30	2009年	福祉	認知症サポーターになろう!	日立製作所秋葉原ダイビル	荒川区認知症サポート劇団「あら笑座」
31		教育	手づくり布おもちゃを子どもたちに	横浜市ボランティアセンター	よこはま布えほんぐるーぷ
32		環境	横浜自然観察の森でいきもの案内板をつくろう	横浜自然観察の森	日本野鳥の会
33	2010年	福祉	ハンディのある方へのサポート	TVAC	TVAC
34		環境	週末は里山に行こう!夏(下草刈り編)	奥多摩鳩ノ巣フィールド	樹恩ネットワーク
35			週末は里山に行こう!秋(間伐編)		
36			週末は里山に行こう!冬(枝打ち編)		
37	2011年	スキルアップ	被災地ボランティアの心構えとメンタルケア	日立製作所秋葉原ダイビル	IFF-CIAP相談室
38		教育・福祉	被災地の子どもたちに手作り布おもちゃを届けよう	日立製作所秋葉原ダイビル	幼い難民を考える会
39		スキルアップ	被災地ボランティアの心構えとメンタルケア	日立製作所秋葉原ダイビル	IFF-CIAP相談室
40		福祉	被災地支援団体の軽作業お手伝い	難民を助ける会	難民を助ける会
41	2012年	スキルアップ	大規模災害～想像力を高めて「もしも」に備える～	東京臨海広域防災公園	東京災害ボランティアネットワーク
42		福祉	音訳ボランティアを体験しよう!	TVAC	全国音訳ボランティアネットワーク
43		教育	外国にルーツを持つ子どもたちと交流しよう!	多文化共生センター東京	多文化共生センター東京

(TVAC = 東京ボランティア・市民活動センター)